



「新会長就任挨拶」

横須賀水交會会長 土井克彦



この度、23年度定期総会での承認を経て、横須賀水交會会長に就任しました土井克彦であります。ここに所懐の一端を述べて就任のご挨拶とします。

横須賀水交會も発足後10年の歴史を刻んで参りました。この間、歴代会長・会員のご尽力により強固な基盤が構築され、海上自衛隊への支援或いは会員相互の親睦・啓発等の諸活動に着実な実績を残して参りました。とは言え、「水交會」全体として

は会員数の減少傾向に歯止めが掛からず、将来的に組織の存亡さえ危ぶまれる状況下にあります。

その中で、まもなく「水交會」に対する公益財団法人の認定が降りるとの朗報も有り、ある意味ここ数年が本会にとりましても大きな結節点になるものと思われまます。

その認識の下、以下に示します方針を機軸として、本会の運営に当たる所存でおります。

**1 存在感と求心力**

ご承知の通り長崎前会長は、『政治的活動に關与せず！』との旧弊を打破し、政治への関心を払う姿勢の重要性を本会に植え付けられました。

過去にも、一部有志の会員により地域教育行政の歪みを正す働き掛けを行われた事例は有りましたが、サイレント・ネービーから成る伝統墨守の壁に阻まれ、大きなうねりとは成り得ませんでした。長崎顧問の戦略

発行 平成23年7月1日  
編集 横須賀水交會事務局

の卓抜さは、その教訓を活かし、政治団体とは成り難い防衛諸団体の中

から有志を糾合し「防衛関連団体連絡協議会(防連協)」を立ち上げ、必要の都度勝手連的手法で政治団体

「〇〇を支える会」として、国政或いは地方選挙活動へ打って出た処にあります。当然のことながら同会が

押す候補者は、国防への確固たる信念と識見を備え、自衛隊に対する深い理解を示す人材であることは言待ちません。その結果、同会活動には自衛隊OBに留まらず多くの有志会

員が参画し、不慣れな選挙活動を物ともせず見事な成果を納めて参りました。今振り返って見ますと、この

活動から横須賀水交會は幾つかの副産物を得ることが出来ました。

【二つは、横須賀水交會の地域における存在感(ステータス)の高揚です。】防連協活動は、国政・地方選を問わず極めて大きな実績を挙げ、地域に少なからぬインパクトを与えました。その結果、横須賀水交會が主催する各種行事等に、地域選出の首

**横須賀水交會主要行事予定**

11月までの主要行事予定は、次のとおりです。多くの会員の参加をお願いいたします。

なお、最新情報は横須賀水交會ホームページで確認して下さい。

**1 防衛諸団体横須賀夏期防衛講座**

(1) 期日 7月30日(土)

講話 1600～1730

懇談会 1745～1900

(2) 場所 横須賀商工会議所

(3) 講師 帝京大学法学部教授 志方 俊之氏

(4) 演題 「国が亡びる！大丈夫か、わが国の危機管理」

**2 幹事会**

(1) 期日 9月17日(土)

(2) 詳細はメール等により案内

**3 部隊研修**

10月(計画中)

**4 第23回ゴルフ大会**

10月(計画中)

長及び国・地方議員の方々の参加が目立つようになると共に、近年地域の諸機関等からのアプローチも増加して参りました。このことは、これらの活動を通じ横須賀水交會の存在

を無視し得ない環境が地域に芽生えて来ている証左と言えます。無論本会は、毛頭「圧力団体」等を指さずとするものではありません。その目的は、あくまで海上自衛隊への支援に有り、これにより地域と海自の間の架け橋の役割がより円滑に進められることを願うのみです。

横須賀水交会は今後ともこの長崎路線を踏襲し、『驕ること無く！』『媚びること無く！』『あくまで謙虚に！』そして自己犠牲と奉仕の精神による活動を徹底し、畏敬と畏怖の目で見られる地域組織の道を推し進めて行く所存であります。

【今一つは、横須賀水交会の求心力の醸成です。】この活動による最大の効果は、会員個々が外に向かって国防の重要性を発信することで、会員の本会への求心力が大きく醸成された処に有ると考えております。これ迄の横須賀水交会活動はどちらかと云えば内向きで、その求心力を同じ釜の飯を喰った仲間意識に求め、それを水交会らしさとして自己満足に浸って来た感はありません。このため外部から見ると、排他的で近付き辛い組織と写って来た処があります。

今回の防連協活動ではその殻を打ち破り、内では丁々発止の議論を生み、外には活発な票の掘り起こし活動が展開されました。そこには、現役時代高い識見に基づく国防への危機意識を持ちながら、ともすれば政治への正当な関与さへ手控えて来た自衛隊OBの魂の叫びを見る思いがしました。会員個々のこうした外への発信行動は、必然的に水交会員としての自己意識を覚醒させ、本会への求心力に繋がったものと見ております。

横須賀水交会は、今後とも主張すべきは主張して行く組織として活動して参ります。

## 2 会勢の拡充

会勢の拡充は、水交会に執って喫緊の課題の一つであります。本部においても現役隊員に対する賛助会員制度等の施策を打って来ておりますが、必ずしも有効な手立てとまでは至っておりません。

横須賀水交会の会員数は、ここ数年微増傾向でその主たる要因は一般有志会員の入会増にあります。諸般の情勢から海自OBの飛躍的な入会行動が望めない状況を勘案しますと、今後とも一般有志会員の入会に期待

する処が大です。既述しました通り、本会は外に向かって発信して行く体質を身に付けつつあると共に、地域においても本会の存在が徐々にクロージングアップされて来ております。今夏の公益財団法人への移行を契機として、積極的に一般有志会員の入会促進を図りたいと思えます。無論、門戸を開放し無闇と人集めに走ろうと言うものではありません。そこには水交会員としての一定の矜持が必要となりましょう。

【その第一は、打算の排除です。】よく「水交会に入れば何か良いことが有りますか？」との質問を受けますが、そこには、戦後の物質文明に毒された打算の論理が見え隠れしております。水交会員にはこの種概念は通用しません。有るのは、自己犠牲と無償の行為による精神的『誇り』を感得できることです。この種概念は今次東日本大震災で日本国民が示した『労わりの心』に通ずるもので、決して荒唐無稽な条件ではありません。一般有志会員として入会する方々にもこの処を良くご理解頂く必要があります。

【その第二は、海自活動への理解で

す。】言わずもがな、水交会は海自支援活動を第一の目的としております。従って、入会希望者には、先ずは海自活動への理解と興味を持って貰うこと、それへの支援活動が我が国の国防に貢献する一助となること、その動機付けが重要となります。要は隠れ海自ファンの発掘に外なりません。

いずれにしても、ここ数年本会の会員数は650名から700名を前後しております。当面の目標を、海自OBと一般有志の入会で会員数が750名となることに置きます。会員皆様の新たな会員の発掘活動に期待しております。

以上就任挨拶が会員の皆様へのお願いばかりとなりましたが、次の世代にバトンを渡すまで一生懸命会長職を勤めて参りますので、ご支援、ご協力のほど宜しくお願いします。

## 平成23年度定期総会を開催

梅雨の中休みの6月3日(金)よこすか平安閣において平成23年度定期総会を開催した。

道家幹事の司会により、物故者に

黙祷をささげた後、会則の規定により長崎会長を議長として、3つの議案について審議が行われ、いずれも賛成多数で了承された。



その概要は次のとおりである。①22年度の事業及び決算報告については、44名の新会員があり、会員数は21年度末と比較し、17名増の692名であること、また、各事業とも計画どおり順調に実施された。②新役員の選任については、長崎会長が顧問に、土井幹事長が会長に、中尾幹事が幹事長に就任したほか、新たに15名の幹事が選任され、土井新体制が発足した。③23年度事業計画及び予算については、本部業務計画に基づく7つの活動方針ごとに事業計画を策定したが、東日本大災害に対する災害派遣部隊への激励が新たに追加されたほか、ほぼ例年どおりの事業及び予算となった。その後の一般討議において、総会

案内等通知が遅いとの指摘があった。郵送費削減のためにとった民間輸送会社の問題で、郵送手段を再検討することとした。

次に、新旧役員・新会員の紹介を行った後、今年が横須賀水交会発足10周年の節目の年であることから、横須賀水交会の発展に貢献された9名のうち、参加いただいた塚崎展生氏、羽田義宏氏、早川三太郎氏に対し、長崎会長から感謝状の贈呈を行



塚崎氏への感謝状



羽田氏への感謝状

った。参加できなかった相澤萬里之氏、大竹高雄氏、齋藤源太郎氏、



早川氏への感謝状

徳永昭一氏、初谷知男氏、吉富明治氏については、後日、長崎会長により御自宅等での贈呈を行った。

最後に、水交会林崎会長より長崎前会長へ感謝状の贈呈、土井新会長



林崎水交會会長から長崎前会長への感謝状

へ会長委嘱の伝達が行われ、成功裏に総会を終了した。

休憩の後、「東日本大震災における海上自衛隊の活動 (From The Sea)」と題して、海上自衛隊の災害派遣部隊指揮官である横須賀地方総監 高嶋海将による講演会が行われた。

講演は、「初動全力」「初期配備」「主要活動」「活動実績」などについて、具体的な数字を挙げた説明の後、沢山の写真を提示しながら「緊急出港」「生存者の搜索」「物資輸送」「港湾調査」「生活支援」「遺体搜索」「原発事故対応」「日米共同」について、現場でしか判らない貴重な生の声を伝えていただいた。



高嶋総監の講演

「さわゆき」は緊急物資を搭載して1時間後には出港したこと、翌朝までには20隻の艦艇が三陸沖に集結し、生存者の搜索を開始したことなど、艦艇・航空機・後方の各部隊が精強・即応を遺憾なく発揮できたとの頼もしい報告があった。また、ヘリコプター(艦載、救難)、L C A C が大活躍したこと、浮流物が多く、スクリーン、推進軸等にロープが絡まったり、海底地形が隆起したりして、湾内への進入が難しい状況で、

苦勞を厭わず困難を乗り越えての活躍であったことが理解できた。家族が亡くなった者も含め、隊員はあらゆる場面で最善を尽くし、本当に頭が下がる働きであったと述べられた。海上自衛隊を支援する会員一同、この講演を通じて、隊員に対し心からの感謝と尊敬を新たにしたい貴重な時間であった。

講演終了後会場を移し、小泉、横糸両衆議院議員、横須賀市長、県議、市議、防衛関係諸団体代表及び倉本自衛艦隊司令官等防衛省・自衛隊の部隊指揮官・先任伍長など、多数の来賓の臨席を得て、懇親会が行われた。

土井新会長のユーモアあふれる所信表明の挨拶に続いて、来賓を代表



土井会長挨拶

して吉田市長、小泉議員、横糸議員から横須賀水交會に対する熱い期待



吉田市長 祝辞

が込められた祝辞を、また、倉本司令官からは大震災に対する災害派遣



倉本司令官 祝辞



横糸議員 祝辞



小泉議員 祝辞

で海上自衛隊が精強・即応を発揮できたのは、良き伝統の賜物であるとの先輩への感謝と海上自衛隊の継続的發展を約束し、頼もしくも心温まる祝



辞を頂いた。

引き続き、来賓紹介、祝電披露へと進み、そして、高嶋総監の音頭で高らかに乾杯し、懇談に入った。会場のあちこちに再会と交流の輪が広がったが、松下護衛艦隊司令官の中締めの乾杯をもって、名残惜しくも散会した。

なお、横須賀水交會では被災地に対する息の長い支援を続ける一環として、懇親会でも募金活動を行い、参加者から浄財が寄せられたことを併せて報告する。(岩永幹事 記)

「横須賀市議会便り」

市議會議員・幹事 木下憲司



この度の統一地方選挙・横須賀市議選におきましては、皆様から多大の御支援を賜り厚く御礼申し上げます。おかげさまで予想以上の結果を得ることができました。また、先般、市議会臨時会におきまして副議長に

も選出されました。これも皆様をはじめ多くの方々の応援があつてのもの、有難く心に期す次第です。

さて、当面の横須賀市政の課題は、東日本大震災で得られた教訓をもとに、防災態勢の再構築に尽きると思えます。また、横須賀の経済はかねてから低迷が危惧されてきましたがこのたびの大震災はこのような状況に追い打ちをかけるのではないかと懸念され、経済の振興も大きな仕事であると自覚しております。皆様から託された思いに応えるべく、横須賀市のため、自衛隊のため、これからも精一杯働く所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

木下けんじ選挙事務所6日間

会員 佐野恭子



4月24日は横須賀市市議會議員選挙投票日であった。昨夏、私は宇都

隆史参議院議員候補の電話掛けを2日間手伝った。困難で、興味深い世界を見た。人の世では、政治の世界がないと、どこまでも軽んじられる存在でしかない。組織に属さない私人であった専業主婦が、また自分の子供以外の子にも目を向けてくれた横町のおばさんが仕事に出るようになった。これは子供たちにさまざまな変化を起こしながら進行している。早晚、我らが団塊の世代は雪崩を打って生産力を持たない、介護を要する老人たちになる。政治力を持たないとどんな事か、気づいた時に政治力を持つ組織が作れるかどうか。その意味でも木下議員の存在は、とても大きい。4月17日出陣式の晴れた朝、木下けんじ選挙事務所は力とエネルギーに満ちていた。正午前に背広の男たちで事務所は一杯になった。初夏の強い光を浴びて選挙カーが事務所前にスタンバイし、みんな肩を寄せ合ってスタートを待った。緊張した、若々しい集団だった。小泉進次郎衆議院議員、ついでサマーワ佐藤正久参議院議員が応援演説をし、興奮が最高潮になった。「えい、えい、おーっ！」道端ま

で人があふれた。見送られて選挙カーが出て行く。電話で投票依頼をする時に相手のお言葉を待った。ご自身のご意見が出て短い時間、交流が生まれる。多くの人々が励ましの言葉を下さった。「頑張れよ！」御耳の遠い人も居た。最初、電話は諦めているご様子だったが、大きな声で申し上げると、何度も聞き返し彼の「自分も一票を持っているのだ」という自尊心を感じた。日が暮れて選挙カーが帰ってくる！拍手が起こる。みんな木下候補を見つめる。心から「おかえりなさい！」絆の暖かさが満ちる。私が事務所から帰る時、木下夫人が遠くでタクシーを捕まえ、真つ暗な中、走ってタクシーを連れて来て呉れた。嬉しい。その夜から横須賀セントラルホテルに6泊した。60歳過ぎて力を尽くすには、ホテル泊まりが欠かせない。

19日は浦賀で個人立会演説会。施設管理人の指示を仰ぎ、さまざまなサイズの、しみのついた古い座布団を両手に提げては敷き並べて行く。折りたたみテーブル両端を担いで演説の場所を作る。夜になると幸い大勢の支援者が詰めかけてくれた。1

階部分は、公文教室が使っているの靴の管理と静粛の注文。下足番をする・脱いだ靴は雄弁だ。元海自の甲の高い、がっちりとした巨大な靴、小泉進次郎議員の靴はこれに御足が入るのか、華奢で薄い。日々選挙事務所は忌憚ない話し合い、打ち合わせを持つ。海自ならではの結びつきを見る。

朝立ち。静かな朝の海を見渡してダイエー門で呼び掛ける。まだ遠くにおいでのうち、ご挨拶を投げると、顔をあげて見てくれる。「おはようございます。市議会議員候補、木下けんじです」若い自衛隊員が不快そうに、顔を背けたり、軽蔑の表情を見せてフンでもなく通り過ぎる。米軍スタッフが笑顔を返して通る。若い自衛隊員にとって生まれた時から参政権ゆえ、有難味がいま一つなのだろう。自分の手で戦い取った参政権で有れば、どうか。かつてニューヨークで化粧品を買った時、私が「この色は、もう私には強すぎるのを知ってるわ。でも、好きな色なの。目の上に小さく入れるわ」店員が強い口調で間髪をいれず「I V o t e Y o u」（あんたに投票するわ）。

夕立ちは、はるかに面白かった！駅から吐き出されて家路を急ぐ人々を階段の下で出迎える。私は「お嬢様、御帰りなさいませ、木下けんじです」  
「奥様、御帰りなさいませ、木下けんじです」女性はどこなたもこちらを見て、嬉しそうにされる。バスの中から手を振ってくれる人もいた。面白くて全部の女性に声を掛けているうち、体が候補者より前に出ている・「佐野さん、どっちが候補者か解らない、という意見もあったからな」・・・

22日金曜日、宇都隆史参議院議員が応援街頭演説に来てくれた。流石に自衛隊出身のがつしりと姿勢のよい身体は目立ち、演説が道行く人々をぐんぐん引き付ける。応援は有り難い。選挙は体力勝負だと何度も思った。このころ選挙カーの運転手は夜、事務所に帰ってくると疲労困憊、言葉も出ない。選挙カーに乗って午前いっぱい、手を振り演説し、活躍してきた人など事務所でお口をパクつと開けてソファで眠りこけた。協力に、惜しげがない。皆が一匹の大きな魚となって泳ぎまわる躍動感があった。事務所まで3、4人の大の男

たちがいつでも飛びだせるようにスタンバイして居た。何人もの海自出身者が終日の手伝いに來られた。快い緊張感が有った。私の実家は小さな地方都市で父方、母方に貴族院議員がいた。父の伯父と従兄弟は初代市長から40年近く市長職にあつた。けれどもその選挙事務所は、暇な人たちがあただ遊びに集まり、無駄話をし、昼から飲食するだけの場であつた。木下事務所は違ふ。6日間私が感じ続けたのは「ひたむきな団結力」であつた。

投票日、元海自の方々が横須賀アリーナの開票作業を見届けられたと言ふ。5000票で1束になる。それが4つ透明な箱に投げ込まれたところで帰つたよ・・・。娘にこのチームワークを話した。「ママ、野村総研にも、凄いいチームワークが有る。でもね、所詮はデスクワークでのチームワークよ。」娘は新入社員273人の研修でベストリーダー賞を貰つたけれどいつもアドバイスを頂いて居たのは同僚の海上自衛隊出身の青年だつた。「佐野さんチームを動かすにはリーダーは常に全体を見ているので個々の仕事はしない。全員に、仕

事の全体像を常に知らせておくのが肝心。」娘は「彼は防大4年間、正規の教育によるチームワークを学んでいた上、命がけの遠洋航海で身体にチームワークを叩き込まれてきたの。そこがアマチュアとは全く違ふ。余談だけど彼は背広の肩と胸がパッチパチ、ガタイが凄く良いのよ。研修の時、一番前の椅子に座るの。その姿からして全然違ふ。美事なの。時々居眠りして真横にばたつと、90度倒れるけど反射神経でさつと元の姿勢に戻るから、講師も何も言われない・・・みんなに好かれて尊敬されていたわ。」この先は、海上自衛隊が国家国民に如何に貢献し、黙々と、優れた仕事をしている組織であるか多くの人々に知ってほしい。日本社会で海上自衛隊の努力を評価してほしい。一番にそれを思う。

東日本大震災災害派遣  
艦艇部隊へ激励品贈呈

海上自衛隊横須賀地区の部隊では地震発生直後から多数の艦艇が緊急出港し、岩手県沖、宮城県沖及び福島県沖に向かい、捜索、救難、人員輸送、物資輸送などの災害派遣任務に従事であるが、隊員激励のため、横須賀水交会から激励品を贈呈した。



長崎会長から三木幕僚長へ激励品贈呈

想像を絶する巨大地震による広域かつ激甚災害で被害に遭われた被災者の皆様に心からのお見舞いを申し上げますと共に、国の大事にあたり、現場で昼夜分かたず災害派遣任務で活動している部隊の隊員各位のご健

闘をお祈り申し上げます。

(本多副会長 記)

護衛艦「いせ」就役

3月16日(水)ひゅうが型2番艦「いせ」の引渡式並びに自衛艦旗授与式(株)I・H・Iマリンユナイテッド横浜工場で実施された。横須賀水交会から長崎会長他数名の幹事が参列した。



海幕長から艦長星山1佐へ艦旗授与

東日本大震災、福島原発事故のため祝賀会等を取り止め来賓者数もごく限られた員数の中、10時30分大災害でご多忙の中、海上幕僚長杉本正彦海将が式場に到着、引渡式に引続き自衛艦旗が海幕長から艦長星山良一1等海佐に授与され、寒気で引き

締まった中、初代乗組員により旭日旗が掲揚された。

昼食をはさみ13時00分出港、全長197メートル、幅33メートルのDDH「いせ」の巨体が横浜工場岸壁をはなれその雄姿は航跡を残し東京湾を一路南下、日本国の海上防衛の任に第一歩を踏み出した。

日本周辺海域の情勢が不透明の中、護衛艦「いせ」の今後の活躍を祈り幸多かれと艦影が小さくなるまで岸壁から見送った。(長崎会長 記)

### 砕氷艦「しらせ」帰国 出迎え

・ただちに災害派遣の準備

砕氷艦「しらせ」(艦長 中藤琢雄 1佐 乗員約180名)は、東日本大震災により南極地域観測協力の行動計画が変更されたのを受け、当初の4月10日晴海入港予定を早め、4月5日午前横須賀に入港した。  
大震災のため、入港行事は執り行われず、防衛省、文科省等、関係者の出迎えは無く、さびしい入港となった。さらに、入港後直ちに、南極支援物資等の陸揚げとともに、災害派遣の準備を行い、いつでも出港でき

る態勢で待機することとなった。  
横須賀水交会は、「しらせ」の入港に合わせ、長崎会長はじめ十数名で自衛艦旗小旗、水交會旗を掲げ吉倉岸壁で出迎え、艦長はじめ乗組員の労をねぎらった。



出迎えた横須賀水交會會員

乗組員の家族で被災されている方も複数おられることが伝えられている。

正に任務第一で職務に邁進され、南極地域観測協力を果たし、休む暇もなく、災害派遣の準備をすることに、心から敬意と感謝を捧げるものである。「しらせ」乗員の皆様、ご苦勞様でした、有難うございます。

(本多副会長 記)

### 練習艦隊横須賀入港、歓迎

5月10日(火)練習艦隊(司令官 大塚海大 海将補)が、近海練習航海の最終寄港地である横須賀に入港した。

横須賀水交會旗、湘南水交會旗をはじめ各支援団体の旗が翻り、横須賀音楽隊の歓迎演奏する和やかな雰囲気の中練習艦「かしま」(艦長 柏原正俊1等海佐)、「あさぎり」(艦長 小牟田秀寛2等海佐)及び護衛艦「みねゆき」(艦長 三浦則文2等海佐)の3隻が逸見岸壁に接岸した。

同艦隊に

は、第61期 一般幹部候補生課程終了者175名(内女性17名、タイ留学生1名)を含む約720名が乗艦している。



岸壁では横須賀地方総監高嶋海将はじめ各級指揮官等多くの隊員、吉田市長等多数の来賓、各支援団体が

迎えた。横須賀水交會からは土井会長代行、顧問等20数名の會員が参加



出迎えた横須賀水交會會員

入港直後に行われた入港歓迎行事は、市長の歓迎挨拶、花束贈呈、司令官の挨拶等短い時間であったが、心のこもった歓迎行事であった。

今年度の近海練習航海は幹部候補生学校卒業式の直前に東日本大震災が発生したため、寄港地等を含め訓練計画を変更したとのことである。しかし、最後の寄港地横須賀では、遠洋航海に向けて訓練に励んだ実習幹部の生き生きとした姿を見ることができた。

同日夕刻、同市内において横須賀市、横須賀市議会、横須賀防衛協會、横須賀商工会議所、海上自衛隊横須賀地方総監部共催の遠洋練習航海部隊壮行会が行われ、部隊から各級指

揮官等が参加した。横須賀水交会からも土井会長代行以下20余名の会員が参加した。東日本大震災のため盛大な壮行会は各寄港地では行われておらず、最後の寄港地である横須賀で初めての盛大な壮行会となった。壮行会は会長である吉田市長から練習艦隊・実習幹部に対して温かい激励から始まり、大塚練習艦隊司令官のお礼の挨拶、5名の横須賀出身実習幹部の紹介等、和やかな雰囲気の中で進められた。初めての多くの支援者との歓談を通じて実習幹部は自分たちに対する期待に応えようとする意気込みが感じられ、若さの頼もしさを感じた。

壮行会終了後、場所を移して司令官、各艦長、先任伍長等を招待して横須賀水交会主催の歓迎夕食会を開催した。20余名の会員が参加して、和やかな懇談で近海練習航海の労をねぎらった。



練習艦隊は東京晴海港を5月24日に出港し、10月下旬までの約5ヶ月間、北米及び南米方面6ヶ国（14寄港地）航程約29,580海里の遠洋練習航海に鹿島立ちする。

厳しい練習航海となると思われるが、実習幹部が国際的視野を養い、心身ともにたくましい船乗りとなつて帰国されることを祈念し、安全な航海を祈る。（廣江幹事 記）

**馬門山海軍墓地墓前祭を開催**

快晴に恵まれた5月14日（土）午前、新緑の薫る馬門山海軍墓地（横須賀市根岸町1丁目5番地）において第56回馬門山海軍墓地墓前祭が実施された。

墓前祭は、遺族関係者を始め、横須賀市長、市議会正・副議長及び議員、海上自衛隊から横須賀地方総監護衛艦隊及び潜水艦隊幕僚長並びに掃海隊群司令、教育隊司令、警備隊司令等、主催5団体（横須賀水交会、隊友会横須賀支部、大津観光協会、大津地区社会福祉協議会、大津地区町内連合会）関係者並びに一般市民等320名にのぼる多数の参加を得

て厳粛に執り行われた。なお、今回初めて国会議員の小泉進次郎氏の参列があった。

本墓前祭は、共催5団体が輪番で主幹事を努めており、今年度は横須賀水交会が主幹事を担当した。このため、例年以上に横須賀水交会会員の志気は高く、土井会長代行以下32名が参列し哀悼の意を示すとともに式を盛り上げた。

司会進行は、横須賀水交会の中尾幹事長が努めた。墓前祭開催に先立ち東日本大震災で犠牲になられた方々に対し哀悼の意をこめ黙祷を行った後、式が開始され整斉と進行された。式は、

一同拝礼の後、国歌斉唱、土井横須賀水交会会長代行及び吉田横須賀市長の追悼のことば、儀仗隊による拝礼、献花、弔銃発射、最後に黙祷を捧げるという次第で行われた。なかでも海上自衛隊の儀仗隊拝礼及び弔銃発射はラッパ隊の吹奏とともに節度と威厳に溢れ、ひと



きわ式典を引き締め格調高いものにしていった。更に、横須賀水交会土井会長代行の追悼のことば（別添）は、「日本人の魂」を呼び起こす内容であり参列者に感銘を与えた。

当海軍墓地には、「軍艦「河内」、筑波」の殉難者を始め、先の大戦の戦死者等1,592柱の英霊のほか戦後一般市民も埋葬されている。

事後の主催5団体の反省会において、事務局（大津行政センター）から「本年の墓前祭は、事前準備から式典終了後の撤収作業まで支援を頂いた横須賀水交会の絶大な協力により極めて円滑に行うことができた。」旨の所見を得た。また、参加者も年々



増加しており、今回は横須賀地方総監の列席及び水交会本部からも3名の参加者があり、全般に水交会の面目を躍如した素晴らしい墓前祭であった。  
(小島幹事 記)

「追悼のことば」



「追悼のことば」を述べる  
土井会長代行

新緑に映えるここ横須賀馬門山海軍墓地において、第五十六回墓前祭を執り行うにあたり、主催五団体を代表し謹んで追悼の詞を申し上げます。

ここ馬門山に鎮まります御霊は、明治十五年から第二次世界大戦の終結に至るまでの間に、諸戦役や訓練において戦死あるいは殉職せられた千五百十二柱の方々であります。

国家の危急に際し敢然として祖国のために勇戦奮闘され、尊い生命を捧げられた方々であり、今静かに在

りし日の勇姿を偲びますと衷心より哀悼敬慕の念を禁じえません。戦後六十有余年、お蔭様で我が国は平和で豊かな社会を築き上げて参りました。

しかしながら、その平和は、同盟国の庇護の下に育まれた脆弱なものであり、その豊かさは、余りにも物的なものに偏重したが故に行き過ぎた利己主義を生んで来たことも隠れの無い処であります。

今般の東日本大震災と併せて生じた福島原発事故は、正にその虚を突かれたものと言えましよう。

しかし、この未曾有の国難に在って、日本国民が示した真摯で労わりの有る姿は世界の賞賛の的となり、過酷な環境下で我が身を省みず黙々として救済活動に当たる自衛官の姿は国民に深い感銘を与えるところにも強い信頼感を覚醒させました。

そこに我々は、物的豊かさの中で忘れかけた「日本人の魂」の発露を見せられたのであります。

我々はこの国難を契機として、先輩諸士が残された我が国の優れた伝統と文化に根ざしたこの種の精神的豊かさを取り戻し、強靱でしなやか

な平和国家の再構築を目指すものであります。本日ここに、御霊の崇高なる意を継いで、今次大震災からの復興をお誓いするとともに、御霊のご冥福とご遺族のご多幸を祈念して、追悼の詞とさせていただきます。

平成二十三年五月十四日

横須賀水交会

会長代行 土井克彦

「海軍の碑」記念行事を開催

横須賀水交会は、海軍記念日の5月27日(金) 1200から1230の間、横須賀ヴェルニー公園内に在る「海軍の碑」の前において、夏川水交会理事長のご臨席をいただき、平成23年度「海軍の碑」記念行事を開催した。

本碑は、近代海軍創設から成長の歴史とともに発展した横須賀市のシンボルとして平成7年全国の海軍関係者及び有志からの浄財により建立されたものであり、記念行事は、平成13年までは海友会が、海友会と横須賀水交会が合同した平成14年以降は、横須賀水交会が毎年5月27日の

海軍記念日に執り行っているものである。

当日は、関東地方が入梅した日であり小雨もぱらつく天候であったが横須賀水

交会会員及び旧海軍の先輩等約40名の参加者の念力が勝ったのか行事を行う間降雨は無く、行事は整齊かつ厳粛に執り行われた。次第



は、ラッパ「君が代」の伴奏による国旗及び軍艦旗の掲揚に始まり、海軍戦没者の英霊に対しての黙祷、長崎横須賀水交会会長の挨拶、引き続き、碑の建立委員長でもあ

った常廣元横須賀地方総監から「秋山真之提督の後半生と宗教の関わり」と題して、バルチック艦隊撃破という大仕事を成し遂げた英雄の精神的に満たされない後半生と宗教に傾倒していく様子が紹介され、人の生き方に示唆を与える内容の講話であった。その後、鎮魂の譜「同期の

桜「巡検ラッパ」「海ゆかば」を傾聴し、最後に国旗及び軍艦旗の降下をもって行事は終了した。

短時間ではあったが終始厳かであり海軍の業績を偲ぶと共に海軍の英霊の追悼と永遠の平和希求に相応しい記念行事であった。行事終了後、参加者は、記念艦「三笠」での記念式典へと向かった。

(小島幹事記)



【記念講話】

「秋山実之中将の後半生と

宗教の係わり合い」

常廣元横須賀地方総監

● 日露戦争で脚光を浴び、小説「坂の上の雲」で宣伝された秋山真之提督の人生の後半を見よう。私が推論した



講話中の常廣元総監

結論を先に言う。オーバーな推測かもしれないが。

① 処遇は決して不遇なものではなかった。が自負心から配置に不満を持った。彼の得意とする戦術の時代が、政策の時代が変わっていくのについていか(け)なかった。② 政策に係わった時代には、先が見えすぎて、現実から浮き上がった。③ 彼の切れる頭脳からきたと思われる独善性と非協調性から周囲から浮き上がった。

『この状況からくる不満のはけ口を宗教に求めたのであろう、最後にはのめり込んだ。最後は、自ら人生を終えるがごとき死に様であった。享年49歳10ヶ月である。日本海海戦時が働き盛りの37歳、その後の12年9ヶ月で終わる短い人生を見る。』

● 先の①②については後述する。③については、実証するようなエピソードである。

海大教官時代、大演習の審判官に出た。最後の艦隊決戦時、最終場面で艦橋に上がり、戦果(被害状況)を的確且つ即座に判別指示した。終了後の講評作成において、彼は一人で作成し、他の審判官は合議作成した。審判長は秋山のものを採用した。秀逸であったことは事実であるが、独善と非協調性は多くの批判を買った。

● 経歴とその間の宗教との係わり合い

日露戦争終結後、海軍大学校教官を2年3ヶ月、「秋山兵学」完成、作戦戦術(戦策)の大御所的存在となる。その後、海上勤務3年が続く。副長、艦長、艦隊参謀。その間のM41年9月、同期(兵17期)トップで大佐に昇任(彼は海兵卒業トップ)。戦術の大御所を負する。彼は、この時期の配置には満足しなかった模様。宗教に入っていく。

彼はもともと宗教心があったと考え。日露戦争において、諸報告に「天佑神助」という表現を多用している。死を忌避して閉塞作戦に反対する。降伏後の旗艦「ニコライ1世」に乗り込んだ時、露戦死者の遺体に祈りを捧げている等々の査証がある。この時は神道に入信し、「皇典研究会」を創設し、皇室を中心とした神道の理論的解明を

行い、かなりの影響力を与えている。彼の入信は、信仰のためというより、探究心からする理論的究明の態度であった。

T元年12月、漸く念願叶った形で軍令部参謀兼海大教官となる。対米作戦構想に専念、学生にも講義する、満足する配置であったであろう1年5ヶ月である。この間のT2年12月同期1選抜(5年3ヶ月)で少将に昇任する。

この時は、小笠原長生や佐藤鉄太郎等が主催する日蓮宗「天晴会」に入会する。当事は東郷、上村両大将等多くの海軍高官が入信していた。そこでも彼は信仰というより理論究明の態度で周囲から浮き上がった。信仰と理論とは異質のものであろう。

T3年1月、海軍最大の汚職事件シームレス事件勃発。八代六郎海相に見込まれたか、3月軍務局長に就任、事件の後始末に当たる。軍法会議の処理不適切と国会から指弾され、国会から軍法会議法改正意見が出て、その対応に当たる。彼独特の弁舌で、改正を最小限に押さえ込んだとの記事がある。時まさにWW1の真っ最中、多忙な日常を過ごす。また大陸に権益を追求しようとする陸軍と意見が対立する。

この間は、多忙でもあり、宗教活動はなかったであろう。

この配置は1年10ヶ月、海相が加藤友三郎に代わるや解任される。軍務局長時代、陸軍に対抗することが多かったためであろう。支那における辛亥革命後の中華民国大統領孫文の支援、支十二か条への反対等、清国時代に獲得した満州における権益の維持拡大を策す陸軍の政策に反対した。正論であったかも知れないが、時流に合わず、

敢え無く首が飛ぶ。WW1の真つ最中、海軍の責務に専念せよとのことでもあろう。日露海戦の後半を共に戦った仲であれば冷徹な加藤海相の英断となつたのであろう。

T5年2月軍務局長解任後、軍令部仕出となつて、4月から半年間、大戦中の欧米の戦況視察に出張する。帰国後の報告、部内講演で、独優勢との一般的見解の中、連合軍の終局勝利を憶測し、又今後の戦争は総力戦、政戦一致であるべきことを強調、戦争は軍人の独壇場と信じる大勢から輿論を買うことになり、ますます周囲から浮き上がる形となる。

この大戦視察から帰投後に、某技術士官の影響を受け、新興宗教「大本教」

に入信する。大本教本部は、舞鶴に近い綾部にあった。機関学校の教官、生徒の入信者が多く、軍隊と教団の相互に影響し合う緊密な関係にあった。前述のように、日蓮宗に満たされず浮き上がった彼は、誘いに応じたのであるう。

諸報告終了後の同年12月、第2水雷戦隊司令に発令される。思わざる配置である。その後は、これまでと違い、つかれたように、足繁く泊り込みで綾部に通っている。不満のはけ口を大本教に求め、のめり込んでいくようであった。

翌6年5月、盲腸炎に罹るが、手術を拒否して、鎮魂帰神の教団信仰の力で収めている。病後休養のため、7月将官会議議員の閑職に就く。綾部通いに精出すことになる。

● 提督の死

翌7年1月、盲腸炎再発、今回も手術を拒否する。小田原の知人宅での発病であった。箱根で静養中の元老山県有朋に国防政策を献策するためであったという。彼はこれまでも国防政策や対米作戦構想等を友人を通して、上司に献策していたが、今回は元老に直訴するものであった。

病高じて、2月4日早朝、『不生不滅明けて三羽の鳥かな』との辞世を残し、教育勅語と般若心経を呟くように唱えながら49年と10ヶ月の短い人生を終えた。

● まとめ

彼の卓越した頭脳と自負心、更によこから来た独善と非協調性のためであるう、人から組織へ、戦術から政策へと変わっていく時代の変化についていかなかった。ために浮き上がり、自負する能力を発揮する場が与えられず、その不満を宗教にぶつけた。

その宗教へのかかわり方、信仰より真理探究の姿勢から周囲から浮き上がる。更に続く配置上の不満から、理論究明なしの新興宗教にのめり込み、自らの生命を絶つような死に至る。最後は、人生を諦めて達観したようにも見える死に様であったが、彼としては不本意な気持ちであったに違いない。天才軍人の、満たされない、果てない後半生であった。

第22回横須賀水交会主催

ゴルフコンペを開催

大震災復興支援チャリティ

去る6月10日(金)、第22回横須賀水交会主催ゴルフコンペを千葉房総半島のエンゼルカントリークラブにて開催しました。3月11日の東日本大震災により、開催を躊躇しておりましたが、自粛ムードを切り替えてチャリティコンペとし、ゴルフ会員から義援金を集め、復興支援にいくらかでも寄与しようということで、開催に踏み切りました。

当日は、入梅になつたとはいえ、曇り時々晴れ、無風という絶好の天候に恵まれ、交代したばかりの土井克彦新会長以下60名のゴルフ愛好者がプレイに熱中しておりました。今回も陸自出身者一名、民



間からの参加者が1名あり、会員、海自OBの親睦だけではなく、ゴルフを通じて横須賀水交会の活動を広報するというのができずという目的を達することができませんでした。

競技は新ペリア方式で実施しました。今回は昭和一桁生まれの長老が4名参加していましたが、その中の昭和9年生まれの小西岑生氏がグロス90、ハンディキャップ19、ネット71で勝ち取り、2位には近藤義美氏、3位中尾誠三氏という成績でした。ベストグロス賞には、シニアの部(65歳以上)近藤義美氏がグロス77で、ジュニアの部(65歳未満)齊藤進氏がグロス80で受賞しました。

今回は、エンゼルカントリークラブが主催するオープンコンペ(ダンロップ杯)にも参加しており、小西氏はダブル受賞となりました。小西先輩からのメッセージです。「水交会チャリティーゴルフでは大変お世話になりました。感謝しております。全くのラッキーで優勝となり老い先短い身に良い思い出になりました。また、ご連絡によると、ダンロップ杯でも何か戴けるとのこと、驚いています。今回は正に盆と正月が同時

に来たような感じですが、欲しかったゴルフバッグとボストンバッグが同時に手に入り、長生きはするものだと言うのが実感です。今後とも宜しくお願いします。」

復興支援の義援金として参加費の中からいただいておりますが、皆様趣旨をよく理解していただき、そのほか、ニアピン、飛賞、ベスグロ等の賞金から多数寄付していただきました。また急遽不参加になった柴田忠氏からも義援金を送付していただきました。義援金として、総額5万4千円が集まりましたので、水交会本部を通じて寄付させていただきます。横須賀水交会ゴルフ会員の皆様本当にありがとうございます。

会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交会会員のみならず、陸海空自衛隊のOBや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交会の活動に理解を深めていただければ幸いと思っております。たくさんの方に声をかけて参加者を増やしていただくようご協力よろしく申し上げます。

(持永幹事 記)

### 春の叙勲受賞者

4月29日 次の会員の方が叙勲を受けられました。(敬称等略)

瑞宝小綬章 加藤寛二

(本多副会長 記)

### 新(編)入会員(3月～5月)

次の方々横須賀水交会に新たに入会(編入)されました。

(敬称略)

- 萩平 好規(有志) 谷 文男(呉教85)
- 萩平 英美(有志) 田上 賢一(幹候32)
- 弓田 定人(横教163) 小山 敏彦(幹候30)
- 小針 一範(横教211)
- 大堰 幹雄(有志) 宇野 恭子(技官)
- 横溝 徹(有志) 深澤 芳夫(横教185)
- 清水 一平(有志) 野口 健(有志)
- 中嶋 厚(幹候31) 早野 禎祐(幹候29)
- 渡邊 和幸(航学26) 松本 幸一郎(幹候29)
- 三島 洋一(幹候30)
- 清原 陽太郎(佐教184) 中村 照義(幹候30)
- 永田 美喜夫(幹候27)
- 常田 美千代(有志)

(高橋幹事 記)

## まだまだ現役！

あなたの体力と正義感をお役に立ててみませんか

## 自衛隊OB募集中



国際警備(株) 横須賀事務所

〒238-0041 横須賀市本町1-1-4

TEL・FAX 046-825-9921